004 TICA

作品	著者	コメント	評価
三年坂火の夢 （講談社）	早瀬乱	５２回江戸川乱歩賞。江戸から東京へ変わる時代を背景に、三年坂を探す主人公のストーリー『三年坂』と、東京大火災と三年坂の関係を探る英語講師のストーリー『火の夢』とが交互に進展し、最後に唐突に両者が結びついて事件の真相が明かされる。と書くと面白そうな話だなぁ。。	☆★
となり町戦争 （集英社文庫）	三崎亜記	となり町との戦争は銃声も聞こえず目に見える流血もなく、広報紙に発表される戦死者の数が増えることだけが戦争の実感だった『僕』に偵察員の役目が任命される。やがて戦争の終わりもまた知らないまま『僕』は日常に戻る。文字や映像でしか知らない戦争のことを書こうと思ったけどまとまらないので止めとこ。話自体は私とはあわなかった。	☆
真夜中の マーチ （集英社文庫）	奥田英朗	１０億円強奪のために力をあわせる３人の関係が変わっていく辺りが面白い。奥田英朗はこういう話はそつなくちゃらちゃらって簡単に書いちゃう感じがする。伊良部シリーズの変わり者の話も物珍しく面白かったけど、やっぱり初期の頃の長編の重たい話が読みたい。	☆☆☆
月の扉 （光文社文庫）	石持浅海	この人の本は３冊目。何を読んでもつまらない。もう今度こそ二度とだまされないっ(T_T)	★
幸福な食卓 （講談社）	瀬尾まいこ	父は自殺未遂、母は家を出て行き、兄は元天才。そんな家族を持つ佐和子の中学から高校にかけての生活。ひとつずつのエピソードはコアなんだけど、それをどうということもなく受け止めている佐和子。最後で大事な役目をする兄の恋人の魅力も、佐和子の大事な人の運命もあまり納得できない。今の若い人、と言ってもうちの娘を見てて特に思うことだけど、何事も重く考えないでさらりと流す感じがする。 ここのお父さんは『お父さんはお父さんをやめる』と言ったけど、突然お母さんを止める宣言をして部屋にこもり、以来一切の家事などをやらなかったのは阿部さんのお母さんです。	☆☆☆
一応の推定 （文芸春秋）	広川純	轢死した老人は事故死だったのか、それとも臓器移植が必要な重病な孫のために自殺したのか。殆どの人間が保険金目当ての自殺と結論づける中、ベテラ	☆☆☆

		ン保険調査員が二転三転の末に真実に辿り着く。第13回松本清張賞受賞作品。	
ＺＯＯ （集英社）	乙一	再読。ずーっと前、岡崎二郎って人の漫画でこんな話があった。核戦争が起きて誰も存在しなくなった世界で一人助かった男がいた。その男の手元には本が１冊しかなくそれが唯一男には辛い事だった。でも男が頭を打って、少し前の記憶を失くしてしまうようになって、たった一冊の本でも何度でも新鮮な気持ちで読めるようになり快適に暮らしましたって話。 この『ＺＯＯ』はあたしにとってそんな本。内容を綺麗に忘れてたから楽しく読めた。あれぇ？あたしは乙一が大好きなんだけどなぁ^_^;	☆☆☆
失はれる物語 （角川文庫）	乙一	６ページと３０ページ足らずの新作のために買った。あとは読んだことがあるものを集めた短編。これで本にしていいんだろか。	☆☆
お母さんは「赤毛のアン」が大好き （角川文庫）	吉野朔実	再読。著者はよくお友達と本の話をする。『誰にとっても面白い本はその素晴らしさ故に人をバカにしてしまう危険性がある。面白かったで話が終っちゃう。話が盛り上がるのは意見が対立した場合が多い』。本も美人も万人が認めるものはないから面白いのね。ところで『因幡の白兎』。兎が乗ったのは鰐か鮫かで意見が分かれたそうな。あたしはまるっきり鰐だと思ってたし、海か川さえもはっきり覚えていなかった。その種類を限定するのは難しいとの結論だったけど、『古事記』によると、鮫と書いてワニと読み、出雲地方は鮫や鱶をワニと呼んでたらしい。こういう話で盛り上がる友人関係が楽しい。	☆☆☆ ☆☆
お父さんは「時代小説（チャンバラ）」が大好き （角川文庫）			
あやめ横丁の人々 （講談社文庫）	宇江佐真理	旗本の息子紀藤慎之介は祝言の日に妻となる人と逃げた男を殺してしまい、隠れた生活を送る身となる。逃げ込んだ町は訳ありな人間が集まるあやめ横丁だった。現実にはありえない街での切ないお話。	☆☆☆ ☆